

自然に身につく国際性 ～高知県立大学 看護学部～



高知県立大学法人 高知県立大学
看護学部 教授

木下 真里 (きのした まり)

大学院修了後、JICA専門家、NGO、UNHCR専門官、国立国際医療研究センター看護師などを経て2019年から災害保健、難民保健、地域感染症ケアの教育・研究に従事。

国際保健に関する活動

高知県立大学では、国際協力の経験のある看護学部の教員が中心となって、国際保健に関する教育、研究、社会貢献活動を行っています。2020年には国際NGOピースウィンズジャパンと災害時の救援と研究活動での協力について協定を締結しました。また2019年から同NGOが実施する海外支援活動に、看護学部教員が専門的助言を行っています。2015年の地震で被災したネパールの山間部や、少数民族の住むミャンマー南部カレン州に赴き、保健衛生状況の改善について調査や助言を行いました。2021年のミャンマーでのクーデター発生後も同NGOの支援活動に協力し、新しいプロジェクトの企画・提案について助言を行いました。2024年に開始した

タイ-ミャンマー国境地帯での避難民支援事業には、本学教員が母子保健専門家として参加しました。また、地域感染症ケアの専門性を活かして、国際緊急援助隊 JDR 感染症チームや Global Outbreak Alert and Response Network にも登録し、活動に備えています。

本学では海外協定校との交流が盛んですが、多くの国際交流の機会には看護学部や健康栄養学部の学生が参加し、将来の国際保健活動につながることを期待されます。コロナ禍で中断し、昨年再開されたイタリア・ヴェネツィア・カ・フォスカリ大学の短期研修は、看護学部教員が引率したことから、今後国際保健に関する研究交流が広がる可能性が期待されます。

本学は2024年に第42回国際保健医療学会西日本地方会を主催しました。他

にも、健康栄養学部の教員が JICA 草の根事業に参加したり、卒業生が JICA 海外協力隊に参加したりと、さまざまな国際保健活動を実施しています。

特徴、どんなことが学べるか

【学部】

本学看護学部のディプロマ・ポリシーには、「国際的・学際的見地に立って人々の健康と安全・安心な暮らしを支える看護を創造することができる基礎的能力を有している」と明記しています。これに対応して、英語などの共通科目の他に専門科目でも国際保健について学ぶ機会を提供しています。

2020年に開講した「グローバル社会と看護Ⅰ（1回生・必修科目）」では、第一線で活躍する専門家や当事者を招き、グローバル化に伴い拡大する多様性や格差と看護について学びます。後期科目のため、入学後半年を経て進路に迷いが生じている学生が、世界がどれだけ広く多様で、看護学を学ぶことが、将来のキャリアにどう役立つのかについて気付くことを期待しています。

特にこの科目では、海外医療活動に偏らないように心がけています。同科目の最大の特徴は、薬害エイズ事件に関する授業です。薬害エイズ事件は、1980年代に HIV（ヒト免疫不全ウイルス）の混入した輸入非加熱血液凝固因子製剤を投与された血友病などの患者が、HIVに感染した薬害被害です。通常、薬害エイズ事件を取り上げる際は被害の深刻さを学び、再発防止策について考えることが



池キャンパス全景 出典：<https://www.u-kochi.ac.jp/site/ike/>

多いと思います。しかしこの授業では、被害だけでなく、非加熱血液製剤が汚染された背景にある、売血で生計を立てていたマイノリティの貧困、そして汚染製剤を大量に輸入・販売した当時の経済成長など、経済のグローバル化による格差にも目を向けます。こうして、身近なところにも影響をもたらしているグローバル化への理解を深めます。

また、1週間の海外研修を行う「異文化理解看護フィールドワーク」（選択科目）や、短期の国際交流もあり、保健医療を学ぶ学生が国際性を身に着ける機会を多数提供しています。欧米の協定校への長期交換留学もありますが、看護学専攻の場合、単位互換が困難な場合があり、卒業年限が長引く可能性があることが課題です。

【大学院】

2014年に本学と全国5大学（兵庫県立大学、東京科学大学、千葉大学、日本赤十字看護大学）間で開設された、災害看護グローバルリーダープログラム Disaster Nursing Global Leaders (DNGL)（現在は募集終了）では、多様な国際的なカリキュラムが実施され、留学生との交流も活発に行われました。

DNGLの後継コースとして2022年に看護学研究科に開設された災害・国際看護学専攻では、国際保健分野で研究指導を受けることも可能です。また、海外での調査、協定校への研究留学の可能性についても検討を進めています。

若い人へのメッセージ

「木を見て森を見ず」という批判がありますが、国際協力の仕事をを目指す人に「森を見て木を見ず」という人を時々見かけます。一人ひとりの健康問題には関心が薄く、国家や国際、地球規模など大規模な仕事の方が高い価値があるような気になることです。大学で看護学に失望



短期研修生と共に演習 出典：著者



ネパールでのNGO委託調査 出典：著者

し、パブリックヘルスの道に進んだ私も、その一人でした。しかし実際には、集団を構成する一人ひとりの状態が理解できなければ、集団への対策が本当に役に立っているのかわからず、どんな大規模の活動を行っても単なる自己満足ではないかと思ひ至りました。真の専門家としては、「木も見て、森も見る」ことができるようになることが理想ですが、本学が提供する様々な機会によって多角的な国際性が自然に身につくことを期待しています。

引用・参考文献

- 高知県立大学看護学部. ディプロマ・ポリシー. 3つの方針. <https://www.u-kochi.ac.jp/site/kango/about-policy.html> 2024 Oct 31
- 社会福祉法人はばたき福祉事業団. 薬害エイズ事件. <https://www.habata kifukushi.jp/record/aids/> 2024 Oct 31
- 国立研究開発法人国立国際医療研究センターエイズ治療研究センター救済医療室. 薬害エイズとは. https://kyusai.acc.go.jp/about_us/003.html 2024 Oct 31